

RPJ News

2018年 6月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行 E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

連絡先 090-1811-7119

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

内 容

* 非日常と日常

実行委員 社会福祉法人ひつじ 大田 佳代

* 作業所いつでもオープンから 3 か月

社会福祉法人ひつじ 作業所いつでも 菊池 義人

* 十勝・帯広の精神保健・医療・福祉を掘り下げるセミナーに参加してきました

社会福祉法人ひつじ たんぽぽ共同作業所 中村 美里

* 事務局からのお知らせ

* 非日常と日常

実行委員 社会福祉法人ひつじ 大田 佳代

社会福祉法人ひつじは平成 30 年に入り新たな事業をいくつか始めることとなりました。2 月から相談支援、地域活動支援センター1 か所、4 月から就労訓練系事業・相談支援事業所 2 か所、グループホーム・ショートステイ 2 か所です。現在行っている事業は就労訓練系事業所 8 か所、グループホーム・ショートステイ 2 か所、相談、地域活動支援センター(市委託事業)3 か所、相談支援事業所 3 か所となりました。

昨年度私の仕事は3つの施設整備事業や新たな事業開始に関することが大半を占めていました。関わる人は県や市の施設整備担当者、設計や建築などの業者、福祉医療機構の融資担当者などで、利用者さんと関わることはごくわずかでした。

昨年夏このニュースに原稿を書いたのは、建築工事が始まったばかり、まだ入札が終わっていない工事もある頃でした。その後は毎週行われる 3 つの工程会議に出て、聞いたことのない言葉



あぼろん全景
(グループホーム、ショートステイ)



あぼろん 2 階オープンスペース



えひめ(就労継続 B、相談等):左側
あぼかど(GH、ショートステイ):右側

が行き交う場に緊張しつつも少しずつ出来上がっていく建物にワクワクしていました。設計図を基に、現場で起こったイレギュラーに対して設計、建築、電気、水道、厨房、ガスなどそれぞれの業者の人たちが意見を出し合い、何とかしていこうとする姿はとても頼もしく見えました。その場にあって私は全くの専門外ですから、話している内容はちんぷんかんぷん。でもお互いが意見を出し合い形にしていくということは普段私がケア会議などでやっていたことと同じだなどと思いながら参加していました。全体を統括する設計

監理を行う人がいて、現場監督がいて、専門業者の人がいて、職人さんがいる、私が知るだけでもびっくりするくらい多くの人たちがひとつのゴールに向かって、着実に進んでいくのです。彼等にとっては当たり前のことでも、私には紙に書かれた物が立体となって目の前に現れることが不思議でなくて、ただただすごいなと感心するばかりでした。そして私は私の立場で精一杯働かないといけないと気持ちが引き締められました。建物が完成に近づくと、現場は徐々にまとめの作業に入り、会議で打ち合わせをすることも少なくなります。それと反対に事業を運営する私たちは、ここを利用する方たちのことを思いながらテーブルやイスなどをそろえていくことがはじまりました。電話工事の日程調整ができず電話はつながっていない、カーテンもついていないという若干準備不足な感じでしたが、無事開所しました。3か月が経ち、利用者は多くはありませんが、事業所らしくなりつつあるかなと感じています。グループホームの方はどうかといえば、初めてのことで手探り状態のためいろいろと教えていただきながら進んでいるというところではあります。

1軒の建物が出来上がるまでには、とてもたくさんの工程があり、とてもたくさんの方が関わります。そしてその成果として建物が完成し、それを目にすることができます。明確な事実として確認することができます。対人援助の仕事ではこんなふうに明確なゴールはありません。だから今回建物ができた時は何とも言えない達成感のようなものを感じました。施設整備にどっぷり浸かった1年を過ごしてきて、今なおリズムが戻っていません。早く日常を取り戻せるといいなと思いながら、ぼんやりした日々を送っています。



あぼかど全景



あぼかど居室



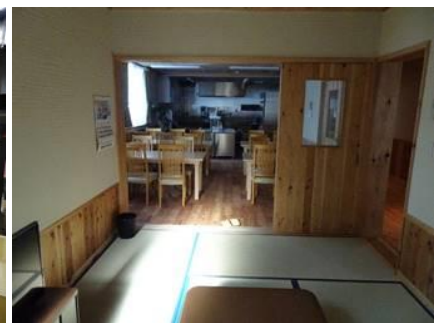
えひめ玄関



えひめ厨房(お弁当)



えひめ厨房(パン)



えひめ食堂

*** 作業所いつでもオープンから3か月**

社会福祉法人ひつじ 作業所いつでも 菊池 義人

今年の4月に作業所いつでもがオープンしました。建物はバブル時にできた大きな中古住宅を買い、改築しました。場所は掛川市の外れですが、同法人の事業所メンタルサポートみこちから直線距離にして数百メートルの所です。元々は生活支援センターいつでもと



して、行政からの委託相談・地域活動支援センターとして 11 年間活動してきたものを場所の移転と合わせて、事業化して作業所いつでもとしてリニューアルオープンしたと言ってもいいかもしれません。事業内容は就労継続支援 B 型・就労移行支援・相談支援(主に特定相談)の 3 つを行っています。

早いもので、スタートしてから約 3 か月が経とうとしています。現在利用者は就労継続 B 型 9 名で、1 日の平均は 4~5 人というところ



です。開所前にこの人はとっていた人が、トントン拍子に就職が決まってしまうと 4 月に利用者がいるの



だろうかと心配していました。そんな中、実際に始めてみると少しづつ人が集まり始めました。なかなか福祉サービスに乗れない方や長期入院の方、65 歳を過ぎているがデイサービスには行きたくないといった方々が、ポツリポツリと集まってきました。週 1~2 日が無理のないところだろうと、考えていました。しかし実際

やり始めてみると思っている以上に作業をやり、もっと来たいと本人からの希望もあり、本人・家族・主治医などの関係機関とも相談し、ほぼ毎日利用するようになり、驚いています。



また年齢層が思った以上に高く、9 人中 5 人が 60 代です。職員はというと 8 人中 4 人が 60 代で、これは老老介護ならぬ老老支援ではないかと思っています。後 5 年後にはお互い 70 を越える人もいて、助け合いながらやっていこうと話しています。

作業は内職作業、請負作業、畑作業の 3 つを利用者のペースに合わせてのんびりとやっています。請負はヤマトメール便を主にやっていて、営業ナンバーの軽・自転車・徒歩で配っています。

移った当初は、地理が分からず四苦八苦していましたが、今は慣れてきて、多いときは 1 日 50 件以上のメール便を配れるようになってきました。



畑作業は、小さな畑からスタートをし始めました。まずは土づくりからと始めましたが、農業ベテランの職員と 20 代の若い利用者が毎日毎日、手入れをしているおかげで、早速、ズッキーニ・なす・きゅうり・ししとうが獲れ始めています。ズッキーニはこちらが思っている以上に実を付け、放っておくとすぐに大きなヘチマのようになってしまいます。

内職作業は、あまり内職に比重を置くと景気や会社の下請のようになってしまうのでセーブをしながらやり始めました。しかしこれもこちらが思っていた以上に利用者の人が無理なくこなすことができるため、当初の予定より数を増やしています。

少しずつですが、形となり始めています。やりたいことは他にもいろいろありますが、焦らずにかといって事業運営ができるように利用者の数を増やしていきたいと思っています。

お近くにお越しの際は、是非見学に来てください。お待ちしております。

* 十勝・帯広の精神保健・医療・福祉を掘り下げるセミナーに参加してきました

社会福祉法人ひつじ たんぼぼ共同作業所 中村 美里

帯広にて行われた十勝・帯広の精神保健・医療・福祉を掘り下げるセミナーに参加してきました。

羽田からくまのマークの AIR DO 機にて飛び立ち、広々と畑の広がる帯広を見下ろして、案外に近かった帯広の第一印象。

「なんて親切な土地なんだろう」

空港から市街への連絡バス、係のオジサマが待ち受け、ご案内。バスの運転手さんもニコニコあっちですよと教えてくれ、ホテルのフロントもラーメン屋のオバサマも、みなさん総じてものすごく親切です。

なんていいところなんだ！と感動し、参加したセミナー。そこで、十勝地方の特徴的な地域性を知ることになりました。

その最たるものが、十勝毎日新聞、通称かちまい。夕刊しかない、という噂の地元新聞です。「夕刊が朝刊みたいに厚いんですか？」の質問に、「そもそも朝刊がどういふものか知らない(一般的な薄い夕刊がわからない)」というお返事。一面から十勝地方の地元情報が載ると言うその噂の新聞を手に入れるべく、ホテルのフロントにて問い合わせると…フロントスタッフも、「うちもかちまいです。だいたい、北海道新聞か十勝毎日新聞じゃないかな。うちは実家もかちまいですが」とのコメント。要するにほとんどの家庭で十勝毎日新聞を愛読しているというリサーチ結果です。この十勝毎日新聞が、各種全国紙と比べ、障害のある方についての記述において前向きで寛容だ、とのことでした。新聞が先か、十勝地方の地域性が先か、それはわかりませんが、帯広市内を見てみると、駅にも作業所利用者が製作した品を売る店があり、図書館にも喫茶店があり、日常の中での接点がごく自然に存在しているように見えました。

これを地元へ持ち帰ってみると…以前のイタリアでも感じましたが、まったく同じことはやはりできないと感じます。そもそも歴史が違い、人が違うのです。無理に同じことをしてみても、結果は同じにはならないでしょう。

では、どうするか。自分たちの地域、県民性に合った方法、手段、そういったものを見つけ、進めていく。ゆくゆくは「静岡っていいね」なんて言われるように…道のりは長いでしょうが、まずは一歩踏み出したいと思っています。



*** 事務局からのお知らせ** 仁木美知子葬儀に際し、ご多用中のところ理事長はじめ役員・実行委員・会員の皆さまに御会葬・御芳情いただき誠に有難うございます。10年前から病巣を抱えておりましたが、その中で多くの皆様と楽しくかかわれたこと故人も本当に宝と申しておりました。紙面をお借りして皆様にお礼を申し上げたいと思います。本当に有難うございました。仁木守

—編集後記— 2018年6月9日土曜日に、精神保健福祉交流協会の前理事長 仁木美知子さんがお亡くなりになりました。余りにも突然の訃報にわたくしばかりではなく、きっと皆さんが耳を疑ったこととおもいます。お通夜と告別式を終え 20 日経った今でも信じることは難しく、その存在の大きさに心に大きな空洞ができています。もっと、話をしたかった。もう一度一緒に旅をしたかった。思いは尽きる事はありません。たくさんの人と出会う機会や、繋がる数々のことばをいただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。心よりご冥福をお祈りいたします。(shiida.m.)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL090-1811-7119